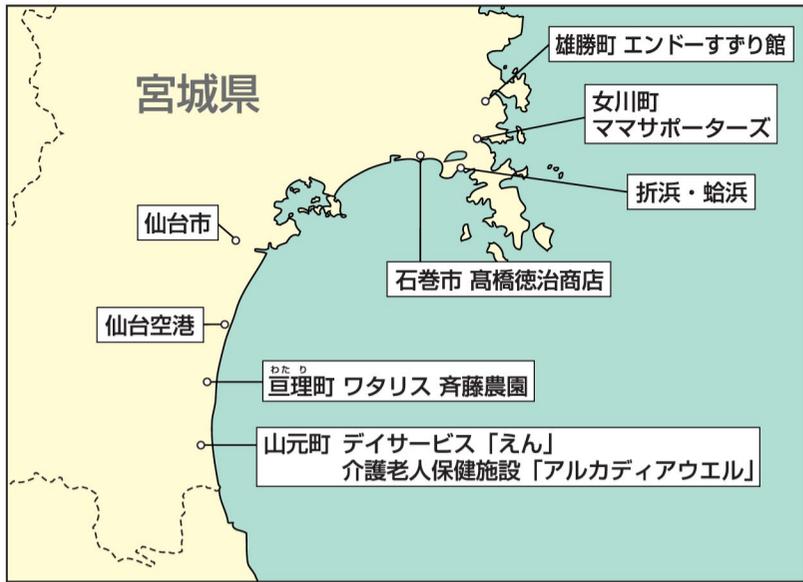


東日本大震災から1年半 被災地復興の今



9月1日～9月3日 被災地訪問旅程

9月1日	仙台空港－巨理町トマト畑－斉藤農園－被災地見学－仙台事務所
9月2日	門脇小、西光寺、高橋徳治商店、石巻漁港 折浜・蛤浜 女川町（うみねこハウス、高白浜仮設住宅、町立病院、瓦礫集積場、女川仮設住宅） 雄勝町、大川小
9月3日	デイサービスえん アルカディアウエル ワタリス

一般財団法人共生地域創造財団：ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ、グリーンコープが連帯し、被災地の支援をしなから地域創造の実現をめざす団体
ママサポーターズ：仮設住宅などに暮らすお母さんたちの、使われなくなったTシャツを使った布ぞり作りなどをサポートしている

ワタリス (WATALIS)：巨理町のてしごとプロジェクトグループ。着物の残り生地「ふぐろ (FUGURO)」などを作る。地域の女性のコミュニティづくりも担当
高橋徳治商店：グリーンコープの取引先の一つ。「おとうふ揚げ」「エビフライ」。津波の被害を受けたため、グリーンコープは職員などが復旧の支援に入った
折浜・蛤浜：津波で壊滅的状況になった漁村。牡蠣養殖復活に向けて支援に入った
エンドーすずり館：全国の9割の生産高を誇る室町時代からの名産「雄勝すずり」のふるさとにある仮設工房。職人がすべて被災し、職人一人が復帰していた
介護老人保健施設「アルカディアウエル」：地区のほとんどの介護施設が被災したため利用者が増え大変な状況になる。福祉ワーカーが継続的に支援に入っていた
デイサービス「えん」：施設がすべて津波で流されたが、現在は再建してデイサービスを継続。福祉ワーカーが継続的に支援に入っていた

東日本大震災から1年半が経過した被災地。瓦礫の撤去が進みつつありますが、復興というにはまだ程遠い状況のようです。被災地のみなさんは、先へ進もうとする強い意志と熱意をもって、それぞれの地域を、故郷を、もう一度蘇らせようと懸命の努力を続けています。グリーンコープは、被災地に心を寄せ、共生地域創造財団とともに息の長い支援をこれからも続けていきます。

今号では、9月1日～3日に行われた共同体理事会メンバーによる被災地視察、昨夏から行なわれてきた福祉ワーカーズによる被災地支援、宮城県巨理町で瓦礫撤去から始まり復興の願いをこめて育てられた加工用トマトの収穫の様子を報告します。



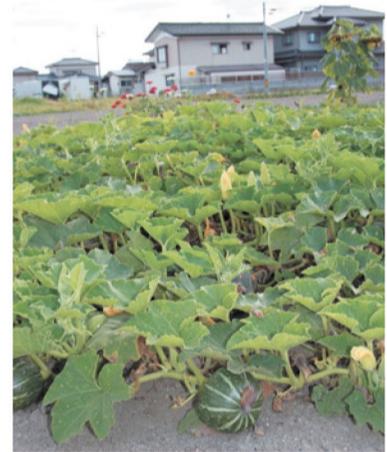
高白浜仮設住宅の集会所に女性たちが集い、おしゃべりしながら布ぞりを作る。前列左から仮設住宅のお二人、グリーンコープ共同体代表理事の田中裕子さん。後列左からまもと理事長の牧幸子さん、おおい理事長の塩月恵子さん、ママサポーターズの八木純子さん



現在も津波の傷跡が生々しい石巻市雄勝町。名産の硯職人の遠藤さんの仮設工房には、津波で流されながらも見つかった奇跡の硯がありました



折浜・蛤浜では、10月完成予定の牡蠣小屋が建設されていました。「一人では次の一歩がなかなか踏み出せなかったと思います。だからみなさんの支援は本当にありがたいです」と蛤浜区長亀山さん



いちご農家だった斉藤農園では、試行錯誤しながら大切に育ててこられたなす、かぼちゃ、パプリカ、とうもろこし、里芋、毛豆などが収穫期を迎えていました

視察報告

被災地を忘れることなく一緒に頑張っていきたい

グリーンコープ生協おおい理事長 塩月恵子

東日本大震災から1年半後の被災地での漁業・農業の復興支援の状況を目で見て耳で聞いて肌で感じて来ました。1日目は、いちご産地で知られていた巨理町へ。いちご畑があった海岸側は津波の影響を受け、ほぼ全滅。その中でただひとつ復興していたのは、共生地域創造財団が支援しているトマト畑。畑に入ると真っ赤な加工用トマトの匂いが「ブーン」と漂い「すごい」と感動しました。いちご農家だった生産者が初めて作ったトマトの話を楽しそうに語る姿がとても印象的でした。近々トマトケチャップやジュースとなって登場するとのこと。その日が待ち遠しいです。

2日目は蛤浜やママサポーターズのうみねこハウス、津波の被害が大きかった雄勝町へ。蛤浜では亀山区長夫妻と再会。カキの加工場も基礎が終わっており、出荷に向けての話を聞くことができました。ママサポーターズの八木さんは「やれることをその時に合わせてやろう」ととても前向きでパワーを感じました。

3日目は福祉ワーカーズから支援に入った、デイサービスの「えん」や介護老人保健施設「アルカディアウエル」、FUGURO作りをしている「ワタリス」の訪問。

この3日間の視察で実感したことは、現地の様子（風景）は1年前と比べてかなり片付いているには見えましたが、話を聞くと実はまだまだ状況だったこと。私たちが今回出逢った方々は、人と人とのつながりがあって仕事を生み出し、みんな生き生きとしていたこと。それぞれのところで復興に向かって一歩一歩頑張っている様子を見たことです。また、訪問の先々でグリーンコープの支援に感謝の言葉を頂きました。今回の旅で学んだことは、やはり「人と人」との共生、「絆」「助け合い・支え合い」でした。これからも東北の被災地を忘れることなく一緒に頑張っていきたいと思います。



宮城県山元町のデイサービス「えん」。斉藤さんご夫妻が、100歳を筆頭に11人のおばあちゃんたちと賑やかにすごされていました



ワタリスで作られている「ふぐろ」に託された想いは様々なところで注目され、現在海外からも発注があるという。「故郷のシンボルとして、また、未永く続けていくために、品質にこだわってお届けしたい」との思いがこめられていました



アルカディアウエルのセンター介護長の高橋さん。「災害対策セーフティーネットを立ち上げ、介護を必要とする人々のための災害時システムを作り上げました」と、介護の専門家として山元町とともに取り組んでいることを話されました